

新体制の経済経営研究所が目指すもの

経済経営研究所長
政策研究リエゾンセンター長
西島章次

この4月1日より経済経営研究所長に就任しましたが、全国の国立大学が平成16年より国立大学法人へと移行する激動の時期であり、大変な重責と受けとめています。これまで、当研究所は神戸大学における附置研究所として高度な研究活動に従事してきましたが、この4月の改組によって新体制となり、わが国における、さらには、世界における研究拠点を目指して様々な活動を実施しています。以下では、この場をお借りし、こうした当研究所について紹介させて頂きたいと思います。

研究所の役割と活動

全国の国立大学には58の附置研究所が存在し、学部や研究科では実施できない先端的研究、学際的研究を実施しています。このうち東京大学には12、京都大学には13、大阪大学には7つの附置研究所があり、全国の先端・学際研究をリードしています。神戸大学には、総合大学であるにも拘わらず1つしか設置されていないことから、当研究所の責務は重大であるともいえます。

法人化に向けて全ての部局は「中期目標・中期計画」なるものを書かねばなりません。研究所はその使命として「経済学、経営学、両者の学際領域における先端研究を、国際的共同研究ベースで実施し、わが国の研究拠点としての機能を果たす」としています。全国の附置研究所のうち社会科学系の研究所として、東京大学の社会科学研究所・社会情報研究所、京都大学と一橋大学の経済研究所、大阪大学の社会経済研究所、そして神戸大学の経済経営研究所の6研究所がありますが、当研究所は経済系と経営系の2つの研究領域を有する点で日本ではユニークな存在となっています。

当研究所は兼松記念館に位置し、現在の研究スタッフは24名と少数ですが、23万冊の蔵書・国連委託資料・各種資料統計・南米文庫などを有する図書室、経営分析のための多種の企業データ・資料を有する企業分析資料室（旧経営分析文献センター）、また、情報ネットワークの構築や各種データベースの提供など高度な情報機能を果たす機械計算機室を有し、恵まれた研究環境にあります。

平成13年度には第2回目の外部評価を実施しましたが、その報告書に掲載されている研究所全体としての研究実績（平成8年から平成12年）は次の通りです。まず、出版活動ですが、書籍43冊、学術論文249編で、このうちレフリード・ジャーナルと呼ばれる海外での著名雑誌などに47編が掲載されています。また、ディスカッション・ペーパーは140編が執筆され、研究所のホームページ<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/index-j.html>からダウンロード可能です。学会報告は142回を数え、海外での報告は56回でした。また、研究所セミナー（RIEBセミナー）・兼松セミナー・江崎グリコセミナー・ラテンアメリカセミナー・

金融研究会などの研究会を実に 349 回も開催しています。こうした当研究所のセミナーは全国的に有名で、国内外の著名な研究者が多数訪れています。このうち外国人研究者は長期・短期滞在を含めると 168 名に達しています。さらに、以上のセミナーとは別に、この 5 年間に IMF との共催会議や Kobe Conference として知られる国際会議などを 14 回開催し、世界的な研究拠点としての活動を行っています。

社会的貢献のために

残念ながら以上の学術活動は、純粋に学術的な活動であるが故に、あまり社会に知られていないことは否定できません。また、研究所は経済学研究科、経営学研究科、国際協力研究科の教育に参加していますが、基本的に学部教育を担当しないため、神戸大学の学生たちにも存在が知られていないことも事実です。

このため研究所は抜本的改組を行い、これまでの 5 つの研究部門を 2 つの研究部門に集約すると同時に、旧経営分析文献センターを発展させた「政策研究リエゾンセンター」を設立しました。こうした体制の下で、これまで以上に先端研究と学際研究を推進し、より積極的に社会的貢献を果たすことを目指しています。

政策研究リエゾンセンターは、社会的に重要な経済問題に関し学術的な政策提言を行うことを任務としています。このため、産官学の共同研究プロジェクトを実施し、研究成果を様々な形態で発信することを計画しています。リエゾンセンターは、企業経営のベストプラクティスなどの研究を行う「企業ネットワーク研究部門」と、金融政策や産業政策などのあり方を研究する「経済政策評価部門」で構成されています。

さらに、当センターは、旧経営分析文献センターが収集・所蔵してきた膨大な関連データを活用し、社会的に重要な研究を実施するとともに、アーカイブセンターとして広くその資料・データを一般に公開することも重要な任務としています。また、神戸商工会議所との共催の「神戸経済経営フォーラム」などの講演会の実施、民間からの受託研究、経営アドバイザー派遣の連絡調整など、まさに大学の学術的研究と社会とを「リエゾン」する役割を担うことを目指しています。こうしたリエゾンセンターの活動に関しては是非一度研究所のホームページを覗いて頂ければ幸いです。

ところで研究所は神戸大学における教育機関としても重要な役割を果たさなければなりません。法人化後は、これまでの大学院参加に加え、とくに大学院修了者を対象とした研究者養成のプログラムを計画しています。こうした高度な研究者を養成することは神戸大学における研究所の役割として極めて重要だと考えています。

最後になりましたが、新しい研究所に対する皆様のご意見を頂ければ幸いです。郵便もしくは office@rieb.kobe-u.ac.jp で研究所までお便り頂ければ幸甚です。